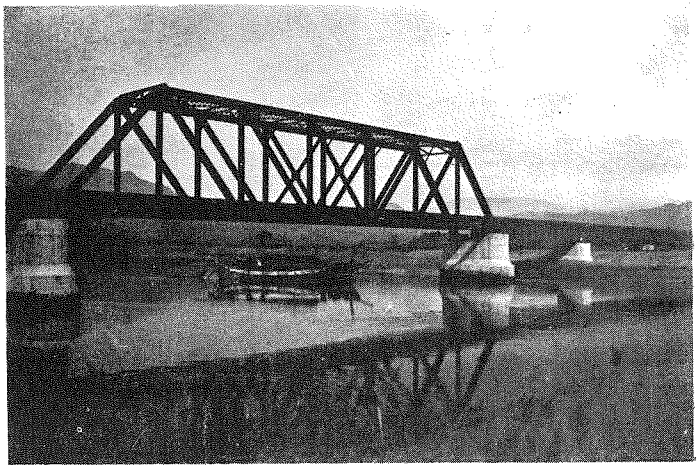
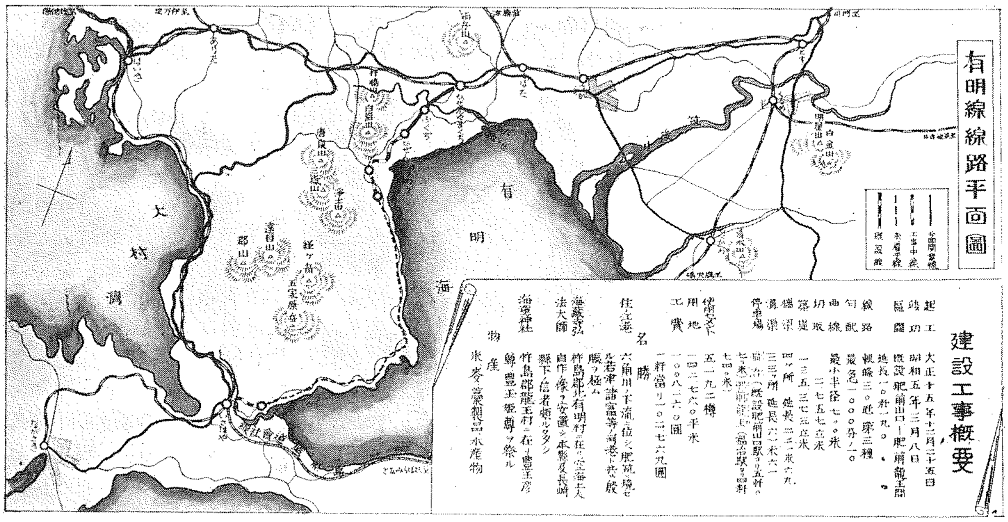
九州有明線の浮動地盤


有明線の六角川橋梁

砂工基礎の六角川橋梁など

潮の干滿の差5米以上に達する九州の有明海は、土木的に見ても中々面白い研究的な土地である。本年三月初旬開通せる國鐵有明線の一部は地盤不良なる爲め、土工及び橋梁基礎工に於て特殊な工法が行はれてゐる。橋脚の基礎には砂土を用ひ、二ケの橋脚又は三ケの橋脚が鐵筋混凝土の一ケの共通のベースの上に施工されてゐる。足駄を逆にした樣な形である。此等の設計施工に關しては鐵道省熊本建設事務所の注意深い研究が進められてゐる。此線中に在る六角川の橋梁　昨年夏、150呎の鋼構桁を浮船利用の巧妙な工法で架設したので有名である。尚ほ同線中の鹽田川の200呎桁も同工法を以本年八月頃施工の由である。

線路の築堤は所謂幽靈地盤の爲めに苦しめられてゐる箇所が多い、此の線は例の白川架橋工事に腕を振つた河西技師の擔任であるが最近東京帝大の山口昇博士も現場に出張して研究に着手したとの事である。

有明線　幽靈地盤の工事に就ては今後も面白い工法が實施される事と思はれる。